

氏名	齋藤 悦子 SAITO Etsuko
所属 職名	大学院人間文化創成科学研究科人間科学系 准教授
学位	博士（学術）
専門分野	生活経済学/Household Economics 生活経営学/Family Resource Management 企業文化論/Corporate Cult
URL	
E-mail	

研究者キーワード / Keywords

企業の社会的責任
生活経営
ジェンダー
ディーセント・ワーク
ワーク・ライフ・バランス

Corporate Social Responsibility
Family Resource Management
Gender
Decent Work
Work Life Balance

主要業績

（著書）「雇用と賃金に対する企業の社会的責任」伊藤セツ・伊藤純編『ジェンダーで学ぶ生活経済論』ミネルヴァ書房、pp.50-67.

（論文）「企業の社会的責任と生活経営学」『生活経営学研究』No.46、pp.35-43.

（報告）「企業の社会的責任と生活経営」日本家政学会 第62回大会、2010年5月29日、広島大学

研究内容 / Research Pursuits

日本においてCSRという考え方は経営戦略として用いられている。その考え方は生活の質や人権問題を含むのであるが、そうした生活問題には注意が払われてこなかった。私たちの関心は生活経営学的視点によってCSRと生活問題の関係性を考慮することである。第一に、生活問題としての雇用状況、賃金、生活時間（ワーク・ライフ・バランス）を明らかにした。第二に日本のCSRにとってワーク・ライフ・バランスが最も重要な問題であることを見出した。最後にワーク・ライフ・バランス促進を実施しているA市の例を示した。ワーク・ライフ・バランス政策はA市の企業と市民との協力で実施されていた。現段階で結論付けられたのは以下である。

（1）CSRは政府と市民社会に影響を及ぼした、（2）CSRが公共政策の中で評価されることと市民が問題解決に参加することが必要とされていた。

In Japan, the concept of Corporate Social Responsibility (CSR) has been employed as a business strategy. Although this concept incorporates quality of life and human rights issues, no attention has been given to such lifestyle issues in this country. Our

■ 教育内容 / Educational Pursuits

■ 研究計画

(1)2009年度から取り組んできた「ディーセント・ワークと企業の社会的責任」研究（科学研究費）について、今年度が最終年度なので生活経営学視点から生活者の生活ガバナンスの形成過程を明らかにする。(2)「グローバル金融危機以降におけるアジアの新興 / 成熟経済社会とジェンダー」（研究代表者 足立真理子）において日本企業実態調査を進める。(3)「男女共同参画に関する統計の調査研究」（国立女性教育会館）における担当分野「企業における男女共同参画」について、データ収集と分析を実施する。

■ メッセージ

現在、私たちが直面している問題を生活経済学/生活経営学を通して検討することで、それらの問題解決にどのように関わっていくことができるのかを一緒に考えてみたいと思います。